

ねこのあくび 第2回

80歳になった機会に、普段思っていることを自由に書いてみることにしました。2017年頃に書いた文章がありましたので、取り上げてみました。取り留めもない話ばかりですが、暇な方は立ち寄って下さい。

目次	Page
* ボブ・ディランとガモフ _____	P1
* 英語を改革する _____	p2
* 大企業は死なない _____	p3
* 中国のエレクトロニクス産業と、日中関係の将来 _____	p5

ボブ・ディランとガモフ

2016. 12. 16

傘寿になりました。

43歳の時に次女が生まれ、この子が二十歳になる63歳まで生きているかどうか？もし、父親がいなくても立派に自分の足で歩いて行けるように「あゆみ」と言う名前にしました。それが63歳はおろか、70歳、75歳、遂には80歳まで厚かましくも馬齢を重ねてしまいました。平均余命を調べると、後9年でした。「たった9年か」とガッカリするとともに、「まだ9年もあるんだ」と励まされもしました。ものは考えようです。さて、この9年間で何をしようか？ ここ3年間、月刊誌に原稿を書いており、何かを世間に発信することはやり甲斐があると感じていますし、言いたいことを言うのが健康に良いと思います。これまで「無口の加藤」と言われていましたが、今後は「しゃべるエイティ」に変身することにします。私はしゃべれば良いので、聞いていただく必要はありません。メールなど届けば、直ちに削除することをお勧めします。

このところのニュースでは、ボブ・ディランに注目していたがガッカリだね。受賞が決まっても数日間電話にも出なかったので、てっきり「そんなものは興味がねえヨ。ダイナマイトを発明して大金設けた人の賞など何があがたい！」と啖呵を切るのかと思っていたら、選んでいただいて感激したと、尻尾を振って貰うらしい。

ただ、「風に吹かれて」は若いころ英語で歌詞を覚えたことがある。“How many years can a mountain exist, before it's washed to the sea?”の歌詞は、君が代の「さざれ石のいわおとなりて苔のむすまで」を思い出す。“How many times must the cannon boll fly, before they're forever banned?”は、

明らかに反戦の歌だが、ディランは単純に反戦を歌っているのではなさそう。何故、人は戦争をするのか？ 人間だけでなく、動物も殺し合うし、セイタカアワダチソウなどは、地下に毒素を出して隣の草を殺すそうで、植物ですら殺人ならぬ殺草を行っている。戦争は自然現象なのかも知れない。台風を海上で消滅させれば有り難いし、戦争のない世の中になれば有り難いが、どちらの自然現象が先に克服されるだろうか？ そんなことを考えさせる歌のように思われるし、どことなく詩情があってノーベル賞に選ばれるのも納得できる。

ノーベル賞と言え、ジョージ・ガモフに与えて欲しかった。ガモフは、宇宙は一点から始まったと言うビッグバンの提唱者として知られているが、同時に「不思議の国のトムキンス」や「1・2・3…無限大」などの名著を残しており、相対性理論や量子論の難しい話を易しく物語風にしたもので、高校生の時に読んで感激し何度も読み返した。宇宙は膨張しているのが原子のスペクトルの赤外偏移で観測されるなどの物理現象を分かり易く解説しており、当時文系か理系か進路に迷っていた私が、ガモフのお蔭で物理へ進むことにした訳で、ガモフは私の人生の恩人である。その偉大なガモフも、ビッグバンの発表当時は世界中の学者に信用されず、長年忘れられていた。ところが、1965年にベル研究所の技術者が、宇宙のあらゆる方向から低温の微弱な電波が来ていることを発見し、これはガモフが予言していた電波であることが分かり、宇宙物理に革命が起こった。残念なことに、ビッグバンが正しいことが判明する前にガモフは交通事故で亡くなっていた。ノーベル賞は、死んだ人にはあげないルールなので、偉大な業績を上げて、長生きしないと貰えないのです。私も長生きしよう。馬鹿、お前が貰うのはノーヘル賞だ。

英語を改革する

2017. 1. 14

英語は今や世界語と言っても良く、国際会議などでは全て英語が使われている。エスペラント語などを世界語にする案もあったが、流通しなければ存在価値がなく、今や英語がデファクトスタンダードになってしまった。ところが英語を母国語とする人は3.5億人で、世界人口70億人の5%であり、残りの95%の人は、わざわざ学習しなければならない。それならば、学習し易い英語を作るべきと思われ、そのための案を考えてみた。

①単語の発音とスペルを一致させる

1-1. 発音しない文字を無くす

Doubt→Dout. Wednesday→Wensday. Handsome→Hansame

Fight→Fait. Right→Rait. Through→Thru. Daughter→Doter

1-2. “a”を“ei” “oo”を“u” など

Game→Geim. Take→Teik. Station→Steishon.

Good→Gud. Foot→Fut. (昔はフォートと発音していたが、発音が変わった)

1-3. “C”は“K”または“S”に、その他

Cook→Kuk. Cool→Kul. Success→Sakses. City→Siti

Eye→Ai. See→Sii. Air→Ea. She→Shi. People→Pipl.

1-4. 新しくスペルを増やす

Tigerは、日本人はタイガーと発音するが、最後の“er”はあいまい母音なので、そのような文字を作る。例えば、“ㇿ”と言う文字を作ったとすると、Tigㇿとなる。

②文法を簡素化する

2-1. 動詞の過去形は、全て”ed“をつけ、名刺の複数形は”s“をつける。

Said→Sayed. Made→Maked. Stood→Standed. Thought→Thinked

Foot→Feets. Men→Mans

文法の改革は簡単では無さそうなので、①が普及してから取り掛かる。

以上、思いつき程度で、まだ十分に考えた訳ではありません。

英語圏の人には、現在の英語とは大きく変わってしまって面食らうだろうが、他の国の人には英語の取得に苦労しているわけだから、一緒に苦労して頂きたい。

普及には、世界の言語学者の参画が望ましいが、どの国とも自由に言葉が通じあえるのは世界平和にとって重要だと考えれば、政治的な話ではありません。

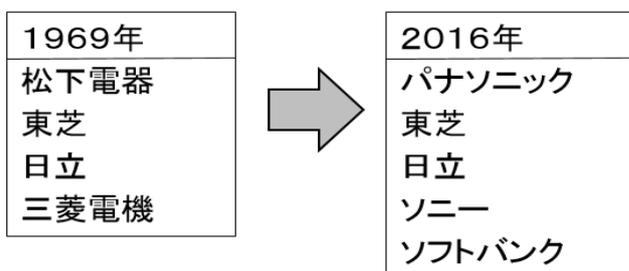
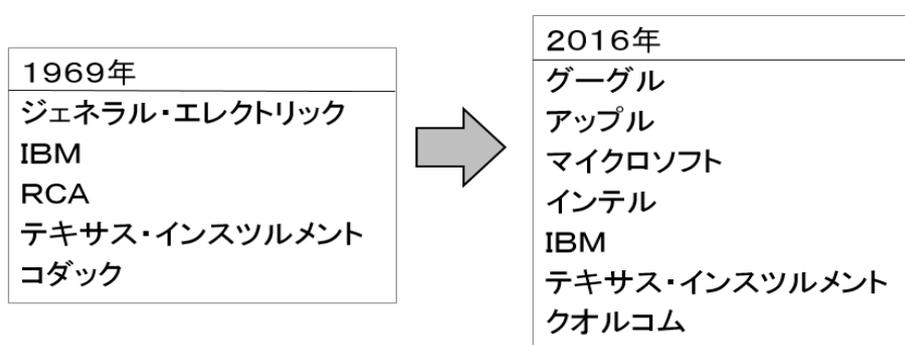
大企業は死なない

2016. 12. 20

私は、1969年に45日の長期間アメリカ中を旅行して26社を訪問して視察しました。丁度、アポロ宇宙船がアームストロング船長達を月に送った直後で、この成功にアメリカ中が沸き返っていました。私もヒューストンまで出かけて宇宙船の実物展示を見ってきましたが、オムスビ型の4畳半ぐらいの場所で、機械装置の間に3人の飛行士が乗って数日過ごした訳で、狭くて大変だったと思いました。

さて、その当時のエレクトロニクス業界に君臨していた会社は下表の通りでした。これらの会社は全て訪問しましたが、どこでも東洋の珍しいお客が来たと歓迎され、日本など競争相手と思っていなくて大事なクリーンルームの中も自由に見せてくれました。

ところが2016年現在、この中のRCAとコダックは倒産して姿がなく、グーグル、アップル、マイクロソフト、インテルなど当時は影も形もなかった会社が世界をリードし、これがアメリカの活力になっています。一方、日本の状況はその下の表の通りで、名前の消えた会社はありません。業界全体が保守的と言われそうですが、大企業が倒産すると大勢の失業者が出ますから、生きのびるのも重要なことです。わずかにシャープが台湾企業に買収されたのが話題になりましたが、倒産したわけではありません。元気のいいソフトバンクを入れました。長期に安定した企業経営ができているのは、日本の経営者が優れているのでしょうか。大会社が倒産すれば、多くの失業者が出て社会問題になりますから、政府も懸命に助けるわけです。「ダメのものは消えろ」と言うアメリカとは正反対です。



さて、話代わって、月刊誌「エレクトロニクス実装技術」に優良企業の紹介を毎月書いていますが、2017年新年号にはパナソニックAIS社を取り上げました。日本の家電市場は、リーマンショック以来ひどい下降線となり、売上は半減しました。このため、パナソニック、ソニー、日立などは数千億円の赤字を出し、家電業界は韓国や中国に対抗できず将来がないとマスコミに叩かれました。私はソニーに在籍した1995年ごろ、デジタル化が進めば誰でも一定の品質のテレビが作れるから、日本企業の優位性が無くなるのにどう対処すべきか議論したことを覚えています。その時、適切な対処をしなかったツケが回ったわけです。ところがドッコイ、苦境になっても大企業はしぶとく立ち上がってきました。日立はインフラ関連の事業で売上を伸ばし、パナソニックはB2B(ビジネス対ビジネス)事業へ転身中です。パナソニックは、数年後の売上を、家電20%、住宅20%、産業機器56%と発表しており、中でも車載用デバイスは2兆円に

迫って、ポッシュやデンソーのようなティア1の企業に肩を並べる勢いです。もはやパナソニックを家電メーカーと呼ぶのは相応しないかも知れません。戦艦大和のように沈められることなく、新しい進路を開拓しています。

AI(人工知能)やIoTで、アメリカが世界のリーダーになっているのは、1969年に存在した企業ではなく、それ以後に現れたベンチャーによるものです。日本も大企業に新規ビジネスを期待するのではなく、ベンチャーが出てくることが重要でしょう。ソニーやホンダも最初は無名のベンチャーだったわけです。ベンチャーでは、自動運転で注目されているPreferred Network社やZMP社などが大きく伸びると面白いと思っています。月刊誌の2月号では、RBI社とイクシス社と言うロボット関係のベンチャー取材してきました。ともに10人足らずの小企業ですが、将来が楽しみです。ベンチャーを育てる仕組みを充実させたいです。

私の娘はオーストラリアに留学しましたが、あちらの大部分の学生は、卒業後数年間は企業で働くが、その後は自分で起業することを考えており、非常にアクティブだと言っています。日本の若者が、就活などに血眼になっている哀れな姿からは、希望が見出せません。教育界全体が間違っているように思うのです。学生は夢を持って卒業してきて欲しい。

中国のエレクトロニクス産業と、日中関係の将来

2017. 1. 31 加藤俊夫

中国の半導体とエレクトロニクス産業界の最近のニュースを拾ってまとめてみました。その他、中国と日本の将来についても考察しました。

1. エレクトロニクス産業についての歴史的な経過

日本の家電メーカーが工賃の安い中国で生産を始めたのが、中国で産業が興るきっかけだったように思います。デジタル時代になって、アナログの微妙な調整をしなくても一定の品質の機器が作れるようになり、日本で生産しても、中国で生産してもテレビの画質にほとんど差がありません。続いて台湾がパソコン王国になり、生産は中国に工場を建てたので、世界中の多くの電子機器の生産は中国が引き受ける事態となりました。従って、これらの機器の生産に用いる半導体の量は膨大で、現在は世界の半導体の半数近くが中国で消費されています。一方、中国の半導体生産は、10年前からかなりの投資が行われたが技術が伴わなければ成功せず、国内生産は未だに世界の10%以下に留まって大変な輸入超過になっており、中国政府も半導体産業の立ち上げに本腰を入れるのは当然で、莫大な金額の投資が噂されています。

2. 莫大な投資の結果はどうか？

中国の半導体業界では、200mmウエハーのラインに投資する話も多いらしいが、これは賢明な策で、恐らく先進国の企業に伍してビジネスを立ち上げることができると思われます。しかし、最先端のLSIの生産は、そんなに楽には達成できない。例えば、NANDフラッシュメモリーでは3D化が進んでいるので、中国でも3Dを生産するための投資が検討されています。しかし、2008年に3Dを世界最初に開発した東芝が、実際に生産できるようになったのは昨年であり、8年間の検討期間が掛かっています。基礎技術が全くない中国で急速に3Dの生産ができる筈がない。そこで、技術を持っている企業を買収するのが最も手取り早いわけですが、どの国からも買収を拒否されるのは当然のことで、全く買収は成功していない。現時点では、最先端LSIに投資してもその行方がどうなるか見通しが立たない。

これまでに成功した例では、LEDと液晶があります。

LEDは、ジャンクションの構成は複雑ですが、装置メーカーからTurn-keyの装置を買えば生産できるので、数年前に装置の爆買いにより、産業として立ち上げに成功した。(もっとも以前からLEDを手掛けていたメーカーはあったようですが)

ディスプレイ関係では、製造工程が比較的単純で、装置を買えばできる液晶については、いまや中国の生産数量が伸びて、いずれ世界を席巻する勢いです。ところが、次の投資では有機ELを上げている企業が多いようで、確かにディスプレイ素子は液晶から有機ELに代わって行くと思われるので、今から投資するなら有機ELにしたいと言う考えは妥当でしょう。しかし、有機ELの研究開発は、山形大学や九州大学など日本勢が世界をリードしているにも拘わらず、ソニーやパナソニックが大いに注力しても、日本で生産に成功した企業はありません。スマホ用はサムスン、大型TV用はLGの2社しか生産に成功していないので、この2社から技術を買う以外に成功する可能性はないと思われるが、韓国勢が虎の子の技術を中国に提供するだろうか？

以上のような状況なので、大型投資は日本のように垂直立ち上げはとても無理だろう。しかし、資金の大部分は政府から出ており、無理に急いで結果を出す必要がない水平立ち上げで良いなら、いずれ業界の大きな勢力になる可能性があるでしょう。

3. 科学技術全般

特許の出願件数は、今や中国が日本を抜いたそうです。駄作ばかり沢山出していると言う見方もありますが、その内に、日本人が驚くような斬新な特許が次々出てくる可能性はあるでしょう。スーパーコンピュータの性能競争では、世界一を2年続けており、去年はインテルのCPUをアメリカ政府の圧力で入手できず、代わって中国製を用いて世界一になったと伝えられています。優れたスーパーコンピュータが普及することは、産業界全体の実力のアップにつながる訳で重要です。

科学技術全般の実力について、中国は伸びつつある国であり、日本は頭打ちのように思われます。日本は科学技術に関して中国との交流があまり積極的とは思えない

が、ここらで将来を見て対策が必要と思われるがどうだろうか。

ここからは、産業界と関係ない話で、余計なお世話と言われそう。

4. 日中の交流を阻害している原因

多くの日本企業が中国に進出し、中国経済を支える一端を担っている。しかし、中国政府が一声掛けると、たちまち反日運動が燃え広がり、日本企業が被害を受ける。何故だろうか？ いつまでこの状態が続くのか？

私は、反日運動が起こるのは、日本に原因があると考えています。

韓国の慰安婦問題が大きな話題となっているが、この問題は以前に河野談話で正式に謝罪しており、安倍内閣も河野談話を支持しており、政府間の取り決めも行ったわけです。ところが、第2次大戦で日本軍が中国を侵略したことに対して、国として謝罪したのだろうか？ 安倍首相はこの問題を問われて、侵略の定義は何ですか？ などと答えており、中国を侵略したとは言っていない。

国と国との関係では、田中角栄が日中国交回復の調印に北京を訪れ、この時に謝罪したわけだが、これが大問題だったらしい。即ち、「先の大戦では中国に多大な迷惑を掛けた」と言ったら、相手の周恩来首相が烈火の如く怒った。「迷惑」と言うのは、通りの女性のスカートに水を掛けた時などに使うことばである。数百万人が殺されたと言うのに、余りにも軽い言葉で、とても謝罪されたとは感じられないと。田中角栄は、何とかその場を取り繕って周恩来を宥めて調印に持ち込めたいらしい。田中角栄に限らず、日本人の大部分が、中国に謝罪しなければならないとは考えていない。しかし、親兄弟を殺された人は、決して日本を忘れることはない。今も反日教育が行われているのは当然でしょう。国として正式に謝罪することが、日中正常化の第一歩だと思う。

5. 南京事件は無かった？

数日前、ビジネスホテル大手のアパホテルに南京事件は無かったと言う本が置かれていて、中国人の客がそれを見て問題になり、中国の外務省が「歴史を正視し、深刻に反省するべし」と言う批判を公表しています。アパホテルの元谷と言う代表が藤誠志と言うペンネームで書いた本で、元谷氏は言論の自由だと言って撤去する積りはないらしい。南京事件の話が新聞に出るのは珍しい。

南京事件と言うのは、日本軍が中国の首都である南京を占領した事件で、ここで大虐殺があったか無かったかが議論されている訳です。日本軍は中国のあちこちで侵略行為を行ったが、上海では中国軍の猛反撃にあってかなりの犠牲者を出したらしい。そこで、上海の占領だけでは済まず、内陸部まで進撃し首都の南京を占領したわけです。日本軍が迫ると中国軍のトップ連中はさっさと逃げ出してしまい、残された兵士はうろろするばかりで、日本軍に捕まった者は、川原に引き出されて全員銃殺されたと言われています。残りの兵隊は、軍服を捨てて民間人の服に着替えてしまい、日本軍

は誰が兵士で、誰が民間人か識別がつかず、怪しげな人物は殺してしまったので、それが民間人の死者が多くなった原因とされています。また、兵站部の到着が遅れたと言う話もあります。上海と南京間は、東京と大阪間ほどの距離があり、先行した軍隊がアツと言う間に南京に入場したので、兵站部の到着が遅れて前線の兵は食料などが無くなり、現地調達を行ったそうです。これは中国人の民家に押し入ることですから、食事を頂いて「ご馳走さまでした」と言って何事もなく済むだろうか。そこでも悶着が起こり殺戮事件など発生したらしい。中国では、30万人が殺されたと言っているが、これは白髪三千丈式のオーバーな話としても、数万人が殺された可能性が高い。当時の日本政府もこれは大変だとして、現地の最高司令官を交代させています。

私の子供の頃、多くの人には中国人のことをチャンコロと言ってバカにしていたから、チャンコロを殺すことを何とも思わない日本人がいても不思議ではないと感じます。

昨年、事件の75周年の式が行われ習近平が参加したと、日本の新聞にも出ていました。小さく出ていたので気が付かない人が多かったでしょう。習近平まで参加した訳で多くの人々が日本憎くしと改めて思ったでしょうが、ほとんどの日本人は事件そのものを知らないし、知っていても自分に関係ない昔のことに拘わりたくないと思っています。これでは心の通じた対話はできません。

私達は、冷蔵庫を開ければ美味しい食糧が入っており、ケイタイで友達とお喋りを楽しみ、夜は温かい布団で寝られます。全て、ご先祖の遺産です。自分たちに都合の良い遺産は引き継ぐが、都合の悪い遺産はゴメンと言う勝手な言い分は通りません。善悪に拘わらず、ご先祖の遺産は引き継ぐ義務があります。

6. 劣悪な国民性

私は、中国へ7回旅行しているだけです。中国人のことを色々言う資格はありませんが、それでも少しは感じていることがあります。強く印象に残っているのは、公德心の無さです。呆れてしまう事態に遭遇したこともあります。

数年前には、中国船100隻が来て日本人が大事に育てていた赤サンゴを根こそぎ取っていった事件がありました。日本でも不心得の者が少しはいますが、中国は全員が集団で不心得です。昨年は南沙諸島に大きな飛行場を作り軍事基地を建設しています。中国の領土とは決まっていない島で、人の国の傍に軍事基地を作ると、周りの国が迷惑するなど全く考えない訳で、国民の公德心がないだけでなく、政府も同類です。何年か後には世界最大の国力を持つ国が、こんな人迷惑を何とも思わない野蛮な国では全く困ったことです。しかし、そんな国であっても、我々が背を向けていては何も解決しません。

7. 日本はどのように対処すべきか

中国は航空母艦を1隻、ロシアかどこかから購入し、太平洋へ出て訓練を開始したらしい。日本は70年以上も前に航空母艦を実戦で使っていた訳ですから、中国海軍の

実力など知れたものです。しかし、軍事予算の規模は毎年日本の数倍ですから、何年か後には、日本の回りを中国の航空母艦数隻が核兵器を積んで廻っているかも知れません。経済的にも圧倒的な実力差となり、かつての侵略の仕返しだと色々な事件が持ち上がるかも知れません。

中国は、孔子や孟子が「徳」や「仁」を説いた国です。現在の野蛮な精神状態を、国力が強くなるとともに世界の範となるように高めて貰いたい。それには日本が指導すべきだと思います。日本人が持つ「他人を思いやる心」を中国人に教えたい。

そのためには、心を開いた対話ができないと駄目で、中国人の反日感情を無くす必要があります。そのためには、日本が侵略戦争を本気で謝罪する必要があります。南京事件75周年記念の日に、日本政府代表が参列して、一言謝罪の言葉を述べれば、反日感情は大いに和らいだことでしょう。

アメリカとイギリスは対等ですが、アメリカとメキシコは主人と家来です。30年後、日本と中国の関係は、イギリス型かメキシコ型か？中国が巨大な国になるのは防ぎようがないでしょう。それまでに日本が対等に付き合えるように、日本側の努力が要求されていると思います。